

沖繩工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	韓国語		
科目基礎情報							
科目番号	5012	科目区分	一般 / 選択				
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2				
開設学科	メディア情報工学科	対象学年	5				
開設期	後期	週時間数	2				
教科書/教材	飯田秀敏他『韓国語の基礎 I』(朝日出版社)、2300円+税						
担当教員	許 点淑						
到達目標							
<p>ハングルの読み書きと基礎的な韓国語の文章の構造が理解でき、あいさつや自己紹介、身近なものの尋ね方などの簡単な会話が出来るようになる。</p> <p>【Ⅷ-A】韓国語の基礎的コミュニケーションスキルを学習する。</p> <p>【Ⅲ-C】韓国の社会事情などの異文化理解を深める。</p>							
ループリック							
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	最低限必要な到達レベル(可)				
助詞の使い分けと用言の活用をしっかり理解し、基礎的な文を組み立てる。	さまざまな助詞の正確な使い分けを理解し、文のかなめである用言を自在に活用する。	助詞の使い分けと用言の活用をしっかり理解し、基礎的な文を組み立てる。	最小限の助詞の習得と活用の仕組みを理解する。				
疑問代名詞、数詞と助数詞(単位名詞)など、語彙を定着させる。	実数と序数、虚数の数詞と助数詞の組み合わせを疑問詞と絡めて的確に使える。	疑問代名詞、数詞と助数詞(単位名詞)など、語彙を定着させる。	日常に必要な最小限の数詞と助数詞を組み合わせる能力を養う。				
韓国語の文字である「ハングル」の正確な発音と書き取りができるようにする。	ハングルを瞬時に正確に発音でき、また、発音変化を正確に反映させて綴ることができる。	ハングルの正確な発音と書き取りが文単位でできる。	基本母音と子音の正確な発音と書き取りが語彙単位でできる。				
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	日本語母語話者が外国語として韓国語を学習するという視点に立ち、両言語の共通点と相違点に注意しながら授業を進める。						
授業の進め方・方法	ハングルの成立事情から始まり、文字の仕組みの理解と発音の十分な練習を行う。その後、助詞の使い方、用言の活用と多様な活用語尾を学習し、基本文型を中心に韓国語の骨組みを学んでいく。韓国語と日本語とは同じく膠着語であり、多くの共通点を有しているため、母語である日本語を内省することは韓国語の理解に大いに役立つものである。						
注意点							
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	文字と発音①	ハングルとは?、母音字母、子音字母			
		2週	文字と発音②	子音字母、平音、濃音、激音			
		3週	文字と発音③	有声化、複合中声、終声			
		4週	文字と発音④	韓国語の音声、連音化、音声変化			
		5週	文字と発音⑤	複合終世、挨拶表現			
		6週	文法・表現編―第1課	用言、平叙形、助詞①			
		7週	文法・表現編―第2課	疑問形、疑問詞、助詞②			
		8週	文法・表現編―第3課	指定詞、存在詞、指示詞			
	4thQ	9週	文法・表現編―第4課	用言の活用と語基、活用語尾			
		10週	文法・表現編―第5課	漢数詞			
		11週	文法・表現編―第6課	固有数詞、時刻と時間、助詞③			
		12週	文法・表現編―第7課	否定形、意思・推量語幹、位置名詞			
		13週	文法・表現編―第8課	敬語表現、不可能表現、願望表現			
		14週	文法・表現編―第9課	過去形、試行表現			
		15週	文法・表現編	まとめ			
		16週	期末試験				
評価割合							
	試験	小テスト	相互評価	態度	ポートフォリオ	演習課題・発表・実技・成果物	合計
総合評価割合	50	30	0	0	0	20	100
基礎的能力	50	30	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0